

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：関東地方整備局都市整備課
担当課長名：赤星 健太郎

事業名 都市計画道路 田富町敷島線（立体）	事業区分 街路	事業主体 山梨県			
起終点 山梨県甲斐市大字名取字中河原312番地先 ～ 山梨県甲斐市大字大下条字泉尻544番地先	延長	0.640 km			
事業概要 田富町敷島線は、甲斐市を南北に縦断する総延長8,860mの主要な幹線道路であり、外環状道路の一部を担う重要な路線である。 当該事業区間は、平成5年度に着手し、平成22年度的全線供用を目途に鋭意事業を促進している。					
H5年度事業化	S52年度都市計画決定 (H16年度変更)	H6年度用地着手			
H14年度工事着手					
全体事業費	62 億円	事業進捗率 91.6 %			
計画交通量	11,000 台 / 日				
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B / C (事業全体) 2 . 1 (残事業) 5 . 4</td> <td style="width: 40%;">総費用 (残事業)/(事業全体) 15 / 75 億円 事業費 : 14 / 74億円 維持管理費 : 0.66/0.66億円</td> <td style="width: 40%;">総便益 (残事業)/(事業全体) 81 / 158 億円 走行時間短縮便益 : 64 / 141億円 走行経費減少便益 : 13 / 14億円 交通事故減少便益 : 3.5/ 3.5億円</td> </tr> </table>	B / C (事業全体) 2 . 1 (残事業) 5 . 4	総費用 (残事業)/(事業全体) 15 / 75 億円 事業費 : 14 / 74億円 維持管理費 : 0.66/0.66億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 81 / 158 億円 走行時間短縮便益 : 64 / 141億円 走行経費減少便益 : 13 / 14億円 交通事故減少便益 : 3.5/ 3.5億円	基準年 H19 年
B / C (事業全体) 2 . 1 (残事業) 5 . 4	総費用 (残事業)/(事業全体) 15 / 75 億円 事業費 : 14 / 74億円 維持管理費 : 0.66/0.66億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 81 / 158 億円 走行時間短縮便益 : 64 / 141億円 走行経費減少便益 : 13 / 14億円 交通事故減少便益 : 3.5/ 3.5億円			
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（混雑時旅行速度20km/h未満の区間が改善される。） ・個性ある地域の形成（竜王駅周辺整備事業（甲斐市）を支援することで甲斐市の拠点性の向上が図られる） 他3項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 ・田富町敷島線は、竜王駅周辺の交通混雑の緩和に重要な役割を果たすことが期待されており、甲斐市をはじめ関係市町より早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・甲斐市の人口増加に伴い、JR竜王駅周辺の交通混雑がますます深刻化している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成14年度再評価時点の未契約地権者については平成16年度までにすべて契約を締結した。 ・現在、用地取得率100%となっており、0.358kmを部分供用している。残区間についてはH22年度の供用開始を目指す。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・JR委託工事実施に際し、工事用進入路を変更する必要が生じたため、工事着手が平成18年度となった。 ・JR委託工事は平成20年度完了予定で、その後の県工事を含め平成22年度全線供用開始予定である。					
施設の構造や工法の変更等 ・JR中央本線を跨ぐ立体交差部について、HEP&JES工法を用いる等コスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	・以上の状況を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。